



向陵広場

発行号 第113号

発行日 令和5年3月28日(火)

発行元 向陵編集校友会

責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

「以信為本」の精神を後世に受継ぐ 白井由美子

県商 30 回卒 (昭和 56 年 3 月)



プロフィール

昭和 56 年 3 月 愛知県立豊橋商業高等学校 卒業
" 62 年 4 月 愛知県立岩倉高等学校 新任
新任から、4 校、2 所へ赴任
平成 29 年 4 月 愛知県立豊橋商業高等学校 校長就任
令和 5 年 3 月 愛知県立豊橋商業高等学校 校長退任

「いいね！豊商」

校長として赴任した時のあいさつは「母校であるこの豊橋商業高校に着任でき、今こうして生徒諸君を前に、ワクワクする大きな期待と少しばかりの緊張がないまぜとなって胸がいっぱいです。今、商業高校は転換期にあります。このような時においても地域から豊商に寄せられる期待は大きいものがあります。私はこのことを常に意識しつつ、生徒諸君の夢が実現でき、『いいね！豊商』

と豊商の「いいね」が生徒諸君を発信地として増やしていけるよう、学校を挙げて取り組んでまいります。」学校のキャッチコピー『いいね！豊商』が誕生した瞬間でした。今「いいね」がいただけたかを自分で判断することは難しいですが、母校での6年間は生徒・教職員・保護者等の皆様、そして地域の方々と周りの方々のご支援ご協力を受け、幸せな時間となりました。

「校訓『以信為本』」

『信頼し信じることがすべての基本である』を意味し、本校商業教育の根幹になっています。この人になら自分を委ねてもいい、と思える「信用・信頼」の構築は、AIにはできません。そして、何気ない人と人とのコミュニケーションが実は非常に大事であったことを私たちはコロナ禍の中で気付かされました。「機微を感じ取る」「心情を慮る」といったことは、人にしかできません。豊商での学びにより信頼関係を築くことができるようになり、人と人が繋がっていき幸せの輪が広がる。これが商業教育の神髄であると私は考えてきました。校訓「以信為本」の実践により、人と人との細やかで豊かな関係性が築かれ同窓会がより発展してくれることを願っています。

「桐教会」

豊商には卒業後教職員になった同窓生の組織「桐教会(どうきょうかい)」があり、コロナ禍前までは年度末に親睦会等を開いていました。令和4年度現在豊商では私を除き16名の同窓生が教職員として学校を支えています。どの先生も生徒の成長を第一に個人としても魅力的に教職に就かれており誇らしい限りです。さらに令和4年度豊商出身の教職員は他校まで含めると約50名を数えるだけでなく、近年は教職員としてほぼ毎年採用されています。これらの方々は当たり前ですが、商業高校に進学しなければ教職員を志すことはなかったはずですが、なぜ教職員を志したのか、高校時代に受けた商業教育や商業高校の先生方が魅力的だったからではないでしょうか。これからも一人でも多くの卒業生が教職を志してくれることを期待しています。